

シラバス記入用紙

大学院名: 鳴門教育大学大学院

■ 科目番号と項目番号

研究科名: 学校教育研究科

別紙「科目番号と項目番号」を参照し、下表の科目番号項目番号欄に記入してください。

担当者名: 小野瀬雅人・川上綾子

記入例 1-(1)、実1-(1)

科目名: 学習者理解・支援の実際と課題

No.	授業スケジュール	主な内容	科目番号 項目番号	(認定委員会記入欄)
1	イントロダクション	本授業の目的と進め方を理解し、学習の構えをつくる。		
2	事例分析の方法に関するガイダンス	実践事例の分析にあたり、事例分析や事例研究の考え方や考察の進め方、それらの結果に基づく学習者理解の具体的方法について学ぶ。	2-(1)	
3	教科学習にかかわる実践事例分析1(国語科・社会科の学習)	国語科・社会科の学習における児童・生徒理解の方法と課題を、国語科・社会科の授業研究事例を対象として、演習や実習を交えながら考察する。	2-(4)	
4	教科学習にかかわる実践事例分析2(算数数学科・理科の学習)	算数数学科・理科の学習における児童・生徒理解の方法と課題を、国語科・社会科の授業研究事例を対象として、演習や実習を交えながら考察する。	2-(4)	
5	教科学習にかかわる実践事例分析3(英語科、家庭科、技術・家庭科の学習)	英語科・その他の教科学習における児童・生徒理解の方法と課題を、国語科・社会科の授業研究事例を対象として、演習や実習を交えながら考察する。	2-(4)	
6	教科学習にかかわる実践事例分析4(音楽科、図画工作科、美術科、保健体育科等の学習)	音楽科・その他の教科学習における児童・生徒理解の方法と課題を、国語科・社会科の授業研究事例を対象として、演習や実習を交えながら考察する。	2-(4)	
7	教材開発・学習方略に関わる実践事例の分析	各教科や道徳等の教材開発・学習方略に関する研究・開発事例を対象として取り上げ、演習や実習を交えながら考察するとともに、事例から今後の研究課題を明らかにする。	2-(4)	
8	学習環境に関わる実践事例の分析	学習環境に関する研究・開発事例を対象として取り上げ、演習や実習を交えながら考察するとともに、事例から今後の研究課題を明らかにする。	2-(4)	
9	学習意欲を高める(1)	児童生徒の学習意欲や動機づけを規定している要因について、自らの実践を振り返りつつグループに分かれて討議し、発表・意見交換を行う。	2-(3)	
10	学習意欲を高める(2)	学習意欲を高めるための個々の技法の背景となる理論的枠組みについて理解し、実践状の課題に照らしながら、児童生徒への具体的な働きかけについて考察する。	2-(3)	
11	思考活動を支援する(1)	人間の認知過程に関する研究事例から、学習者の思考活動を支援するための具体的な技法や実際の工夫点を知り、その有効性や課題について協議する。	2-(2)	
12	思考活動を支援する(2)	前時の講義内容に関わる実践事例を通して、授業において児童生徒の思考活動を支援するための具体的な技法や実際の工夫点を知り、その有効性や課題について協議する。	2-(2)	
13	思考活動を支援する(3)	前時、前々時の講義内容に基づき、思考活動の支援という観点から単元構成や授業における教材・課題等を構想し、発表・意見交換を行う。	2-(2)	
14	社会的相互作用を促す(1)	人間の学習に関する研究の歴史的変遷と現代における理論的・実践的課題を踏まえ、学習における社会的相互作用の機能とその重要性を理解する。	2-(5)	
15	社会的相互作用を促す(2)	研究事例・実践事例を通して、授業における子どもたちの社会的相互作用の様相、それと学習の深まりとの関係について理解する。また、社会的相互作用を生かしたり促したりするためにはどうすればよいか、その手法や学習環境について討議し、整理する。	2-(5)	

※ シラバスを添付してください。

【専門科目（授業・カリキュラム）：学習者理解・支援の実際と課題】

【授業科目名】	学習者理解・支援の実際と課題		
【英 文 名】	Facts and Problems of Learner Understanding and Support		
【担当教員・所属・研究室番号】	小野瀬 雅 人	・授業実践・カリキュラム開発・A706	
	川 上 綾 子	・授業実践・カリキュラム開発・A414	
【標準履修年次】	1年次	【開講時期】	後期・火曜・4限
【授業形態】	講義・演習	【単位数】	2単位
【キーワード】	児童・生徒理解，授業実践，事例分析，学習意欲，思考，社会的相互作用		
【連絡先・オフィスアワー】	小野瀬	E-mail: onose@naruto-u.ac.jp	
		内線 6268・月曜～金曜（12：30～12：50）	
	川 上	E-mail: kawakami@naruto-u.ac.jp	
		内線 6278・質問等は適宜受け付ける	

【授業の目的及び趣旨】
 本授業は、児童生徒の学習理解の観点から、授業実践の実際と課題を明らかにし、児童生徒の学習意欲を高めるための実践的指導方法を探究する。前半は、児童生徒の学習理解の観点から、授業実践の実際と課題を明らかにし、児童生徒の学習意欲を高めるための実践的指導方法を探究する。後半は、児童生徒の学習理解の観点から、授業実践の実際と課題を明らかにし、児童生徒の学習意欲を高めるための実践的指導方法を探究する。

【教職大学院到達目標における該当項目】

領域	観点	到達目標（理論的側面(T)/実践的側面(P))
A 教育的 人間力	3 教員の在り方、 教員としての省察	T：教員の果たすべき役割，教員の専門性について，理論的に理解する
B 教育実 践指導力	6 学習指導	T：授業の構成，実施，評価に関する理論的，専門的な知識やスキルを習得する P：授業の構成，実施，評価に関して，他の教員に助言・支援する
	7 学級経営	T：子どもの理解，学級集団の理解に関する理論的な知識や，関連したスキルを習得する

【授業計画】

週	授 業 の 内 容
1	イントロダクション：本授業の目標と進め方を理解し，学習の構えをつくる。 (講義：小野瀬・川上)
2	事例分析の方法に関するガイダンス(講義：小野瀬) [実践事例の分析にあたり，事例分析や事例研究の考え方と考察の進め方，それらの結果に基づく学習者理解の具体的方法について学ぶ。]
3	教科学習に関わる実践事例分析1(国語科・社会科の学習)(演習・実習：小野瀬) [国語科・社会科の学習における児童・生徒理解の方法と課題を，国語科・社会科の授業研究事例を対象として，演習や実習を交えながら考察する。]
4	教科学習に関わる実践事例分析2(算数数学科・理科の学習)(演習・実習：小野瀬) [算数・数学科の学習における児童・生徒理解の方法と課題を，算数数学科・理科の授業研究事例を対象として，演習や実習を交えながら考察する。]
5	教科学習に関わる実践事例分析3(英語科，家庭科，技術・家庭科の学習)(演習・実習：小野瀬) [英語科・その他の教科学習における児童・生徒理解の方法と課題を，英語科・その他の授業研究事例を対象として，演習や実習を交えながら考察する。]
6	教科学習に関わる実践事例分析4(音楽科，図画工作科，美術科，保健体育科等の学習)(演習・実習：小野瀬) [音楽科・その他の教科学習における児童・生徒理解の方法と課題を，音楽・その他の授業研究事例を対象として，演習や実習を交えながら考察する。]

7	教材開発・学習方略に関わる実践事例の分析（演習・実習：小野瀬） 〔各教科や道徳等の教材開発・学習方略に関する研究・開発事例を対象として取り上げ、演習や実習を交えながら考察するとともに、事例から今後の研究課題を明らかにする。〕
8	学習環境に関わる実践事例の分析（演習・実習：小野瀬） 〔学習環境に関する研究・開発事例を対象として取り上げ、演習や実習を交えながら考察するとともに、事例から今後の研究課題を明らかにする。〕
9	学習意欲を高める（1）（演習：川上） 〔児童生徒の学習意欲や動機づけを規定している要因について、自らの実践を振り返りつつグループに分かれて討議し、発表・意見交換を行う。〕
10	学習意欲を高める（2）（講義・演習：川上） 〔学習意欲を高めるための個々の技法の背景となる理論的枠組みについて理解し、実践上の課題に照らしながら、児童生徒への具体的な働きかけについて考察する。〕
11	思考活動を支援する（1）（講義：川上） 〔人間の認知過程に関する研究事例から、学習者の思考や知識獲得における認知的特徴を理解し、それらと授業場面との関係について考察する。〕
12	思考活動を支援する（2）（講義・演習：川上） 〔前時の講義内容に関わる実践事例を通して、授業において児童生徒の思考活動を支援するための具体的な技法や実際の工夫点を知り、その有効性や課題について協議する。〕
13	思考活動を支援する（3）（演習：川上） 〔前時・前々時の講義内容に基づき、思考活動の支援という観点から単元構成や授業における教材・課題等を構想し、発表・意見交換を行う。〕
14	社会的相互作用を促す（1）（講義：川上） 〔人間の学習に関する研究の歴史的変遷と現代における理論的・実践的課題を踏まえ、学習における社会的相互作用の機能とその重要性を理解する。〕
15	社会的相互作用を促す（2）（講義・演習：川上） 〔研究事例・実践事例を通して、授業における子どもたちの社会的相互作用の様相、それと学習の深まりとの関係について理解する。また、社会的相互作用を生かしたり促したりするためにはどうすればよいか、その手法や学習環境について協議し、整理する。〕

【履修上の注意事項】

授業では、研究事例や実践事例の分析・検討にあたって受講生が事例をレポートにまとめ紹介したり、実践のシミュレーションや技法修得のための実習などが含まれるため、授業への積極的な参加を求める。

【成績評価方法】

出席回数ならびに事例紹介、レポート、実習等への参加の程度により行う。

【テキスト・参考文献】

前半では、現職教員による実践研究をテーマとした修士論文、その他、実践事例報告集等の利用を予定している。後半でも、とくに決まったテキストは用いず、毎時、必要な資料を配布し、参考文献についても授業の中で紹介する。